



◆ 早崎百合子 議員

職員提案事業の積極活用は

町長 重要度・緊急度により取り組む

職員から各施策について色々な提案をすることは、施策選択の多様性を確保する意味で大変重要だと考えられる。

問 職員提案事業の経緯は。

答 人口減少・少子高齢化は喫緊の課題であり、危機意識を共有し、全庁的に対応することが急務であるため、全職員を対象として施策提案を募った。

問 職員提案事業の今後の流れは。

答 社会情勢の変化や町を取り巻く状況を注視し、課題の重要度や緊急度を勘案しつつ、全職員一丸となり取り組んでいく。

問 職員提案の検討集約方法は。

答 係長級の職員を主なメンバーとしたプロジェクトチームを設置。提案の絞り込みを行い、財政状況や実現可能性を考慮し、予算化を検討した。
本年度より実施している事業は、「若者定住マイホーム取得支援事業・三世代ハッピースマイル事業」及び「空き家利活用促進事業」である。



補助金パンフレット



◆ 水谷久美子 議員

どうなる西美濃厚生病院再編

町長 事実判明時に速やかに公表

西美濃厚生病院は、町民の命と健康を守り、町の発展に65年間貢献している公的医療機関である。2023年からの病床再編と新病院構想をめぐり町民の不安の声が広がっている。

問 町長が新構想を知ったのはいつ、どこで、誰からか。

答 本年1月25日に西美濃厚生病院運営協議会で、その後、6月5日役場公室でJA岐阜厚生連理事などから再編の説明を受けた。

問 町民が新構想を知り得ないが故に誤った情報や不安が広がっているが。

答 関係機関が協議今後、公表すべき事実が判明した場合、広報などで知らせる。

問 議会や町民への報告を病院関係者と協議しなかったのか。

答 6月5日、厚生連役員から（6月末に西美濃厚生病院職員への説明をするので）公表を控えてほしいと言われた。



西美濃厚生病院

加齢性難聴に補聴器購入補助を

町長 今後の課題として研究する

65歳以上では、3人に1人、75歳以上では、約7割の人が加齢性難聴と言われている。聴力の衰えは、脳の活動に影響することから中・軽度難聴者への補聴器の装置が求められる。

問 高額な補聴器の購入には、健康保険が適用されない。公的補助の新設を求める。

答 中・軽度難聴者の聞こえの程度や人数の把握もできていない。今後の課題として研究したい。

問 公共施設や家庭への磁気ループの設置や支援を求める。

答 導入方法を含め、需要などを勘案し検討したい。

問 聞こえのバリアフリー化に特化した町の計画がないか。

答 令和2年末に策定予定の、次期計画に国の障害者福祉計画基本指針も参考に対応したい。

*ヒアリングループとも呼ばれている。難聴者の聞こえを支援する設備で、ループアンテナ内で誘導磁界を発生させることにより音声磁場を作るもの。

12月に定例会を12月10日（火）から12月20日（金）まで開会の予定です。ぜひ傍聴にお越しください。なお、一般質問（12月19日）はケーブルテレビの収録があり、後日録画放送されます。

なお今年度は、議員協議の結果、ケーブルテレビを年2回収録することとなりました。ケーブルテレビ収録は6月（終了）と12月に予定しております。また、議会の模様は最終日より10日後程度で、養老町議会ホームページより録画配信がご覧になれます。詳しい日程については、「広報よろう」12月号と町ホームページでお知らせします。ご不明な点は、議会事務局までお問い合わせください。

議会QRコード